

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	芸術文化国際交流(書道)(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	54
対応する主な課題	①文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
本県の高校生と台湾の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		20人				
		派遣人数				→
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					
		高校生を台湾へ派遣し、文化交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	グローバルリーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施した。 ○R元(H31)年度: 書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し文化交流を実施予定。
							一括交付金(ソフト)	委託	
予算事業名	-						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	○H30年度: ○R元(H31)年度:
							-	-	

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	20人	20人	20人	20人	20人	20人	100.0%	4,065	順調	書道分野で活躍する高校生20名を台湾へ派遣し、文化交流を実施した。 台湾では、現地の高校に相当する、台北市立第一女子高級中学、師範大附属高級中学と有意義な交流を行った。また、淡江大学中国文学科にて張炳煌教授からデジタル書法の指導を受けた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 派遣人数について、計画値20人に対し、実績値20人となった。台湾での交流で書の文化に対する理解がより深まった。 外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B	(2)これまでの改善案の反映状況		
								平成30年度の取組改善案		
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。								①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。		
②語学研修の内容の充実に努める。								②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。		
③事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。								③引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。		
④交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。								④ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。		



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

- ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。

##### ○外部環境の変化

- ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
- ・現地交流校との受入日程調整が必要となる。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容について更に吟味する必要がある。また、成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。
- ・事前に受け入れ現地高校等と日程調整を行う。



### 4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げると共に語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。
- ・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	芸術文化国際交流(グローバル・リーダー育成海外短期研修事業)			実施計画記載頁	54
対応する主な課題	①文化は交流により育まれ、互いの文化を理解しあうことにより発展するため、国際的な文化交流イベントから草の根レベルの交流活動まで幅広い取組を強化していくことが求められている。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
本県の高校生をドイツ等へ派遣し、諸外国の高校生の文化交流を通して相互理解を深め、本県及び外国の文化の振興に寄与するとともに、本県高校生の文化活動の充実・発展に資する。		54人				
		派遣人数				→
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	教育庁文化財課 【098-866-2731】					
		高校生を海外へ派遣し、文化交流を実施				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
グローバルリーダー育成海外短期研修事業(沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム)	委託	22,757	21,294	24,383	25,927	25,275	31,221	一括交付金(ソフト)	○H30年度:「音楽」、「美術・工芸」、「郷土芸能」の芸術分野で活躍する高校生をそれぞれドイツ、台湾、アメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施した。 ○R元(H31)年度:「音楽」、「美術・工芸」の芸術分野で活躍する高校生をドイツへ、「郷土芸能」をアメリカ(ハワイ)へ派遣し、文化交流を実施予定。
予算事業名							-		
主な財源	実施方法	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算額	H30年度 決算見込額	R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
							当初予算額	主な財源	
		-	-	-	-	-	-		○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	派遣人数				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	60人	59人	60人	54人	50人	54人	92.6%	25,275	順調	音楽、美術・工芸、郷土芸能分野で活躍する高校生をドイツ、台湾、ハワイそれぞれへ派遣し、文化交流を実施した。派遣人数について、計画通り50人を派遣した。 3か国とも現地高校と交流を行った。また、各分野とも現地の一流の芸術家または大学教授から個別で実技指導を受けた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
										進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果 高校生をH30は50名3か国に派遣した。それぞれの国での交流で芸術文化に対する理解がより深まった。外国との文化の違いやコミュニケーションをとるために、英語力を向上させようとする姿勢がみられた。実際に見聞きすることで国際的な視点から考えるようになり、研修の効果が高まった。 合同成果報告会で他国で研修した生徒の研修成果を共有することで、よりいっそう海外に対し興味関心を持たせることができた。
活動指標名					H30年度					
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度の取組改善案								反映状況		
①高文連、専門部、旅行社と密に連携を図る。 ②語学研修の内容の充実に努める。 ③各分野におけるより効果的で治安のよい派遣先を検討する。 ④各分野の事前研修にファシリテーターを導入し、派遣生徒の目的意識を高めより効果的な研修を実施する。 ⑤交通状況や生徒の体調に配慮し、ゆとりある日程を検討する。								①情報共有ができ、事前研修・本研修とも円滑に取り組めた。 ②語学研修を7時間実施し、会話の充実が図れた。現地学習等も8時間実施し、昨年度より学校交流等で学んだことを活かすことができた。 ③派遣先である台湾、ドイツ、ハワイとも治安もよく、友好的であった。 ④引率教諭の負担減につながり、各生徒の主体性、積極性及び協調性等の自己評価が高まった。 ⑤ゆとりある日程にしたことで、現地高校生とのランチ交流も実現し、昨年より交流する時間が増えた。		



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

- ・当事業を実施するにあたり、県高等学校文化連盟、専門部及び旅行社と密に連携を図り、相互理解を深め、情報の共有化と互いの役割分担を明確にする必要がある。
- ・交流の際に必要な語学力が十分でない。
- ・実技の披露だけにとどまらないよう、現地高校生とより深いコミュニケーションが取れるように、引き続き交流校との連携を行う。

##### ○外部環境の変化

- ・現地での移動の時間帯、手段、天候により所要時間に若干変動がある。
- ・特にヨーロッパ派遣は移動時間が20時間、そして時差が8時間と大きく、時差ほけで体調を崩す生徒がでる。
- ・受け入れ現地高校の行事の時期、台風が襲来しやすい時期、インフルエンザ流行時期や学校行事の時期等を考えて、本研修の日程を組む必要がある。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

- ・本研修をより深めるために、事前研修の内容の吟味が必要である。
- ・事前に受入側の現地高校等と日程調整を行う。
- ・本研修の成果を高めるために、派遣生徒の意識高揚に努める。
- ・交通状況等により本研修に影響が出ないようにするため、ゆとりをもった日程を組み、研修時間をしっかり確保する。

### 4 取組の改善案(Action)

- ・高文連、専門部、旅行社と密に連携を図るとともに、派遣国の文化・交流に精通する方々から意見を伺い、より良い研修に繋げる。
- ・語学研修の内容を検討し、本研修の充実に努める。
- ・ファシリテーターを十分に活用し、派遣生徒各自の目標設定をしっかりと、目的意識や達成感の高揚に努める。
- ・交通状況や生徒の体調に配慮し、現地での交流が充実したゆとりある日程を検討する。

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	1-(4)-エ	文化の発信・交流	施策	① 国内外における文化交流の推進と発信力の強化	
			施策の小項目名	○沖縄文化を軸とした国内外との交流・発信	
主な取組	みんなの文化財図鑑刊行事業			実施計画記載頁	55
対応する主な課題	②沖縄は魅力的な文化資源に恵まれているが、こうした文化資源の魅力を効果的に発信していくための基盤が不十分であり、発信力の強化が課題である。				

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		H29	H30	R元(H31)	R2(H32)	R3(H33)
沖縄の歴史・文化への普及・啓発を行うため、国指定文化財158件、県指定文化財269件、市町村指定文化財963件を紹介する書籍、5冊を刊行し、県内の学校及び公立図書館を中心に配布する。ハンドブック版は、観光客向けに世界遺産などの文化財と関連する施設に配布する。						
実施主体		県				
担当部課【連絡先】		教育庁文化財課 【098-866-2731】				
		県内指定文化財紹介書籍の刊行(平成33年までに6冊)				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況							(単位:千円)		
予算事業名	みんなの文化財図鑑刊行事業						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ソフト)	直接実施	2,976	8,518	9,469	18,515	14,650	15,783	一括交付金(ソフト)	○H30年度: 編集・刊行計画に基づき、写真撮影と原稿執筆を行い、『埋蔵文化財』編を刊行した。 ○R元(H31)年度: 編集・刊行計画に基づき、写真撮影と原稿執筆を行い、『有形文化財』編を刊行する予定である。
予算事業名	-						R元(H31)年度		平成30年度活動内容と令和元年度(平成31年度)の活動計画
主な財源	実施方法	H26年度決算額	H27年度決算額	H28年度決算額	H29年度決算額	H30年度決算見込額	当初予算額	主な財源	
		-	-	-	-	-	-		○H30年度: ○R元(H31)年度:

様式1(主な取組)

活動指標名	県内指定文化財紹介書籍の刊行				H30年度			H30年度 決算見込 額合計	進捗状況	活動概要
実績値	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	0冊	0冊	0冊	0冊	1冊	1冊	100.0%	14,650	順調	<p>県内指定文化財紹介書籍として、文化財図鑑『有形文化財編』を発刊した。本事業では、文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする等の検討を行い、中学3年生が基礎的な学力でも理解できる内容や構成にした。また、指定文化財60件以上の写真を撮影した。</p>
活動指標名					H30年度					
実績値										<p>進捗状況の判定根拠、要因及び取組の効果</p> <p>『埋蔵文化財編』の発刊した。編集会議を各週で行い、各分野の進捗状況等を確認することによって、事務局、各分野とのやり取りがスムーズに行うことが出来た。その他、指定文化財の写真撮影については60件の目標を超えて80件の文化財を撮影することが出来た。</p>
活動指標名					H30年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成30年度 of 取組改善案						反映状況				
<p>①発刊される図鑑の内容が異なるため、引き続き義務教育が修了した中学生3年生が理解できる内容にまとめ、文化財普及書の分かりづらさを改善する。</p> <p>②写真撮影は、事前調査や撮影工程、文化財の取り扱い等について綿密な計画を立てることで効率化を図る。</p> <p>③発刊される図鑑の内容が異なるため、引き続き文化財行政担当者研修などを通して市町村へ事業説明を丁寧に行い、事業への理解と協力を求める。</p>						<p>①文化財の最新の状況を写真で掲載するなど、見て楽しめるレイアウト、デザインとする検討を行った。</p> <p>②中学3年生が基礎的な学力でも理解できる内容や構成を検討した。</p> <p>③読者の興味関心を高めるために、遺跡ごとにキャッチコピーを作成した。本文内にキャラクターを作成し、学習の補助となるコメントを加えた。</p>				





## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

#### (1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

##### ○内部要因

・これまでも文化財の普及書は刊行されているが、説明が専門的であることから内容が分かりづらいと指摘がある。

##### ○外部環境の変化

・推定された文化財の中には、数百点の資料を有する文化財もあり、各文化財ごとに状況が異なるため、写真撮影や説明文の内容など、工夫を要する必要がある。

・文化財の保護は市町村単位で行っている。

#### (2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・文化財の普及書の分かりづらさを改善する必要がある。

・写真撮影については、事前調査を綿密に行い、効率化を図る必要がある。

・市町村教育委員会単位で、文化財保護の協力を得る必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

・義務教育が終了した中学生3年生が理解できる内容にまとめ、分かりづらさを改善する。

・写真撮影は、事前調査や撮影工程、文化財の取り扱い等を綿密な計画を立てて効率化を図る。

・文化財行政担当者研修など、機会があるごとに市町村へ事業説明を丁寧に行い、事業への理解と協力が得られるようにした。